



2016年度 女性活躍 ネットワーク 事業

栃木県中小企業団体中央会

女性同士のネットワークを通して、士気を高め、業務の工夫や知識も話し、職場で活躍できる人財となる

2016年度 of 取り組み報告

どんな話をしていたのか

身近な業務課題や、他の企業様の取り組みから、自社に取り入れられることはないかと、議論

今の職場でより働きやすくなるためには、どうしたらよいただろうかと、素朴な悩みや、問題について打ち明けあう。

育児とのバランスをどう取っているのか。企業での取り組みにはどんな事があるのか。など情報共有と、意見交換。

コミュニケーション等についての知識や視点の習得のためのセミナーを企画し、講師依頼からの段取りと実施。

あくまでも、ネットワーク参加者主体の活動として進められています。

工業団地でのネットワーク

業種、年齢、経験年数や職位の異なる働く女性同士のネットワークづくりを支援する事業です。

今年度は3つの工業団地（真岡・佐野・清原）で実施されました。また、昨年実施の宇都宮工業団地でのフォロー（継続）も開催されました。

時間帯は、企業様のご協力を得て、午後2時間の時間を活用させていただきました。

取り組みの様子です。基本的には自分達の中で、進行役や書記、準備、片付け等、役割を決めて行い、参加できなかったメンバーにも情報が共有できるように自分達で仕組みを作り、実施していました。



佐野

話した内容の具体例

- ・ 女性活躍と言われているが、お互いの企業では、どのような取り組みがされているのか。
- ・ 年下の上司と、どのようにコミュニケーションをとっているのか。
- ・ なんで仕事を続けているのか。また、5年後はどうして居たいか。
- ・ お昼の時間は、どこで、どう過ごしているのか。
- ・ 保育園に子供を預けるにも、二人目以降は難しい場合もあるが、どうしたら良いか。

などなど、普段企業内で話しても、なかなか別の視点がえられない事について、話して、ヒントをいただく事もあった。



清原



真岡

オフサイトでのネットワーク

県や中小企業団体中央会、管理団体で設定した5回のネットワークの場
以外に、お互いの声掛けにより、就業時間後や、ランチの時間を活用して、
さらにお互いの絆を深めました。



事業の参加前後の変化

アンケートの感想より

アンケート結果から、いくつかご紹介いたします

【参加者】

- ・ 社外の人との交流を通し、自分自身の考え方に、捕らわれず、活躍できる自分になるために、キャリアアップの視野を広げる事ができた。
- ・ 他社の人との交流が持て、情報交換ができた。
- ・ ネットワーク事業を通して、社内に戻ってから、社内のネットワークも広がった。
- ・ モチベーションが向上した。

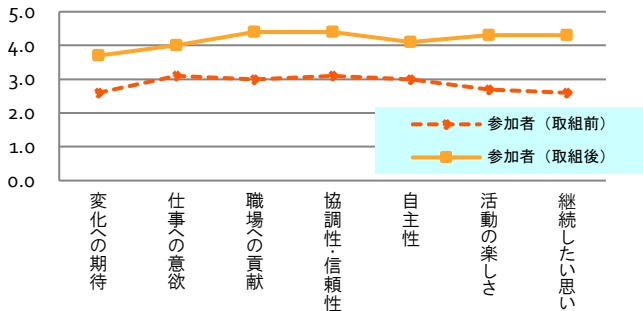
【企業側】

- ・ 部下へのコミュニケーションの取り方が変わった。
- ・ 自身が担当する仕事の領域を広げようとする意識ができてきたと感じる。

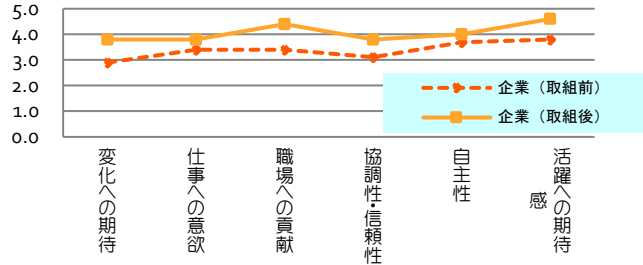
★★運営のための重要なポイント★★

- ・ ネットワークを作る際の人数は、10名程度の方が集まりやすい。多すぎると、女性が集まるには「継続したくても、集まれる時間が取れない」「就業時間中だとなかなか上司の許可が得づらい」などから、継続が困難な理由がピックアップされやすくなるようです。企業様のご理解により安心して運営できると考えられます。
- ・ リーダーがボランティア的になることもあり、言い出し役と、集まったときの進行役、準備役、など役割を分ける事が大切。また、リーダーがボランティアではあるが、信頼される人物へと成長していく必要があるのは、職場と同じである。その上でもネットワークの中で、全員がリーダーシップのトレーニングも行えと考えることができます。

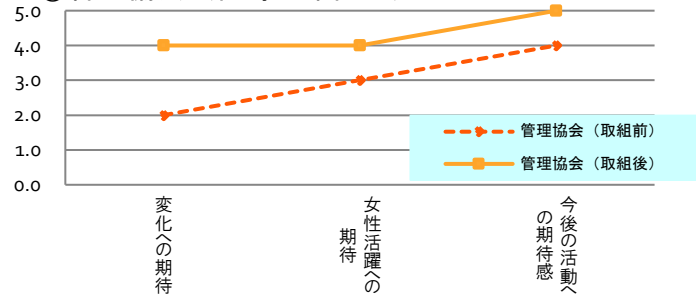
①参加者（佐野工業団地）



②企業（佐野工業団地）



③管理協会（佐野工業団地）



上記・右記は一つの工業団地のアンケート結果です。

点線が取組み前。実線が取組み後となります。（5段階評価）

参加者の仕事への意欲、職場への貢献ができていると変化したものが、企業側にも伝わったと考えられます。また、職場への貢献度や協調性なども企業側からみても向上していることが解ります。ネットワークを作り、その場で前向きな議論が交わされる価値が見えます。

【今回ご協力いただいたアドバイザー】

スマイルコミュニケーション 代表 小林里江（こばやしさとえ）様

今回の事業にあたり、ご自身も企業に、事務員から経営まで携わってきた経験を持ち、コーチや講師としても活動されている方で、ご自身の体験も織り交ぜながら、参加者の方々が自主的に活動できるようにアドバイザーとして関わっていただきました。

【アドバイザーからのコメント】

栃木県中小企業団体中央会事業推進部 吉川裕子様から、「是非近い視点からアドバイザーとして関わって欲しい」とご依頼をいただきまして、昨年度より関わらせていただきました。

参加者は、お仕事のお忙しい中、自分達の仕事の事、両立の事、職場環境の事など、一緒にお話しする機会をいただきました。全員が、本気で話せる仲間を持ち、「元気になった」「もう少し頑張ってみよう」「同じような悩みを抱えている人たちが居るんだ」などと、元気になって、職場に戻られ、職場で活躍されるのが、頼もしく感じました。

参加者がお話しをする機会を与えてくださった企業様にも感謝いたします。

